

[畜産部門 令和5年度 普及に移す研究成果]

事 項 名	チモシーの奨励品種「マオイ」の特性		
ね ら い	本県に適するチモシーの品種（早生）を選定するため、流通品種の生育特性及び収量性を検討した結果、「マオイ」が既存の奨励品種と比較して、生育特性及び収量性に優れることが明らかになったので、奨励品種として普及に移す。		
内 容	<p>1 来歴 雪印種苗(株)において育成されたチモシー品種であり、令和5年から販売されている。</p> <p>2 主な特性（標準品種「ノサップ」との比較）</p> <p>(1) 発芽の良否：同程度である。 (2) 定着時草勢：やや劣る。 (3) 越冬性：やや優れる。 (4) 早春の草勢：優れる。 (5) 出穂始期：1日早い。 (6) 越夏性：やや優れる。 (7) 秋の被度：同程度である。 (8) 病害程度：やや低い。 (9) 収量性：優れる。 (10) 倒伏の発生：同程度である。 (11) 早晩性：早生品種である。</p>		
期待される効果	粗飼料の安定生産に資する。		
普及上の注意事項	なし		
問合せ先 (電話番号)	畜産研究所 酪農飼料環境部 (0175-64-2791)	対象地域 及び経営体	県内全域の養牛 農家等
発表文献等	なし		

【根拠となった主要な試験結果】

表1 「マオイ」の生育特性

(令和2～4年 青森畜産研)

形質	選定品種	標準品種	備考 (評点法等)
	マオイ	ノサップ	
発芽の良否	6.0	6.0	1(極不良)～9(極良)
定着時の草勢	5.3	6.0	〃
越冬性	5.7	5.0	〃
早春の草勢	6.9	5.8	〃
出穂始期	6月4日	6月5日	
越冬性	5.7	5.0	1(極不良)～9(極良)
秋の草勢	6.0	5.8	〃
秋の被度	88.3	85.0	%
草丈(1番草)	101	92	cm
草丈(2番草)	63	43	〃
草丈(3番草)	32	28	〃
倒伏程度	1.0	1.0	1(無・微減)～9(甚)
病害程度	2.7	3.3	〃

- (注) 1 発芽の良否及び定着時草勢は令和2年秋の調査。
 2 秋の被度は令和4年の値。
 3 1及び2以外の形質は令和3～4年の2か年平均。

表2 利用年次別の乾物収量 (kg/10a)

(令和3～4年 青森畜産研)

品種・系統名	利用1年目 (令和3年)				利用2年目 (令和4年)				2か年平均	
	1番草	2番草	3番草	年間計	1番草	2番草	3番草	年間計	年間計	
マオイ	540	186	89	814 (109)	435	77	49	560 (111)	687 (110)	
ノサップ(標)	491	167	89	747 (100)	390	68	45	503 (100)	625 (100)	

- (注) () 内数字は標準品種を100とした指数。

耕種概要

- 試験場所 畜産研究所内圃場
- 播種期、播種方法及び播種量 令和2年9月7日、散播、2.0kg/10a
- 施肥量
 - (1) 土壌改良資材及び基肥 (10a 当たり)
 - 苦土炭カル：pH6.5 矯正量(改良深度 15 cm)
 - ようりん：20%ようりん 125kg
 - 基肥：N-P₂O₅-K₂O=5-5-5kg
 - (2) 追肥量 (kg/10a)

区分	利用1年目			利用2年目		
	N	P ₂ O ₅	K ₂ O	N	P ₂ O ₅	K ₂ O
早春	5.0	3.3	3.3	8.0	5.3	5.3
1番草刈取後	3.0	2.0	2.0	4.8	3.2	3.2
2番草刈取後	2.0	1.3	1.3	3.2	2.1	2.1
年間計	10.0	6.6	6.6	16.0	10.6	10.6

- 刈取期 1番草：標準品種の出穂期
 再生草：標準品種の草丈が60～70 cmに一斉刈り。